

## 平成23年定例第1回金沢市議会

平成23年3月9日

○粟森 慨議員 質問の機会を得ましたので、民主クラブの1員として、以下数点お伺いいたします。

まず初めに、公衆無線LAN整備についてであります。

市長の目玉施策であり、積極的に進めているこの事業は、本市を国内外にアピールし、地域活性化の一助になるものと期待を寄せております。議会の側からも、昨年12月に新幹線金沢魅力発信特別委員会にて提言しているように、外国人も含めた観光客やビジネス客の利便性向上は、時代に呼応した課題であり、スマートフォン等を公衆無線LANのWiFiを通じて利用できる環境整備に取り組む時代を迎えました。しかし、本市の検討が進む一方で、この無線LANがだれをターゲットに整備されていかれるのかが焦点化されておられません。このターゲットを明確にすることで、整備される範囲や情報の内容などが大幅に変わってきますが、現時点で市長はどのような考えをお持ちなのか、お聞かせください。

次に、インフラ整備についてであります。市長は当初、民間に整備を任せる考えを終始述べられておりましたが、市がかかわる施策である以上、多様な通信事業者と契約されているすべての利用者が公平に御利用いただく手だてが当然求められてまいります。そのためには、インフラ整備に際して、行政が大枠を整理しつつ、民間の方々にも御負担をいただき整備していく体制が理想と考えますが、現時点で市長はどのように考えているのかお聞かせください。

ところで、公衆無線LANがまちなかで整備されると、瞬時にさまざまな情報を受け取ることができ、情報を放出することも可能となることから、最低限のセキュリティが当然求められてきます。そこで、このセキュリティ対策について、どのように考えておられるのかをお聞かせください。

さて、インフラ整備と同時に進めていかなければならないのが、アプリケーションの充実であります。さきに述べた特別委員会からも国内外の来街者の利便性や付加価値の向上を図るためアプリケーションの開発推進を提言しておりますし、加えて、金沢の新たな魅力発信、地域活性化のためには、特色ある地域情報などを利用しやすいアプリケーションで提供することが肝要であります。この機会に、施策のかなめともなり得るアプリケーションの開発を地域

の事情を把握している地元企業の活性化やベンチャー企業の育成、障害者雇用などに結びつけることも本市が取り組むべき課題であると言えます。そこで、IT分野では全国的に著名な知識人が集うイート金沢の人脈を使い、地域でのアプリケーションの開発に向けアイデアコンテストなどを行っていくことが地域の活性化や魅力発信につながるものと考えますが、いかがでしょうか。また、行政主導で進めつつも、これらの課題を整理し、商店街や観光関係者、県との連携を密にししながら、地域を活性化させていくと同時に、公衆無線LAN金沢方式を確立することで金沢の名を全国に発信していくことも可能であると考えますが、このことに対する所見とあわせ、意気込みをお伺いいたします。

質問の第2は、金沢競馬についてであります。

金沢競馬の存廃問題については、平成18年12月の金沢競馬検討委員会において、平成19年度から21年度までの3年間の経営状態を見きわめ存廃を判断すべきとされておりましたが、リーマンショックなどによる深刻な景気後退の影響を受け、その結論が平成22年度に先送りされた経緯がございます。このため、昨年9月以降、金沢競馬経営評価委員会が6度にわたり開催され、当面の目標として平成24年度の収支均衡を目指して収支改善を図るべきとしたことに加え、存廃についての新たな判断基準が最終報告としてまとめられました。そこでは、競馬事業の存廃基準は、税金を投入しないことが適切であると指摘し、さらに関係者への補償金など廃止した場合のコストはすべて基金で賄うべきとの考え方を示した上で、その基金が底をつくまでは事業を継続するが、それ以降、競馬は継続しないというものであります。

一方で、金沢競馬は本市の財政に多大な貢献を果たしてきました。つまりは、競馬事業特別会計から本市一般会計への繰出金は累計で93億円を超え、とりわけ国民健康保険の保険料値上げ抑制に充当され市民生活の安定に寄与してまいりました。加えて、金沢競馬には調教師や騎手、厩務員のほか、場内売店や委託業者などを含めると800人を超える関係者がおり、現在においても地域の雇用や経済の活性化に寄与しております。しかも、ここ数年は就職氷河期と言われ国が緊急雇用創出事業などに巨額を投じ、本市も独自で雇用の創出確保に力を注ぐなど懸命に失業者対策に取り組んでいる現況で、県や市がおのずから大量の失業者を生む方向に進むとすれば、時代に逆行しているものとも言えます。そこで、経営

評価委員会の最終報告が出されたものの、競馬事業が本市に果たした貢献度や現下の雇用情勢、手つかずの跡地対策を踏まえ、存廃問題に対する本市の基本的な考え方をお聞かせください。

さて、全国の地方競馬事業は、長期にわたる景気低迷のもとレジャーの多様化やファンの高齢化が大きく影響し、平成21年度には全16主催者中、実に12主催者が赤字の単年度収支になっており、全国で地方競馬事業が苦しんでおります。もちろん金沢競馬も例外ではなく、次年度当初予算において、平成20年度以来3年ぶりの赤字を見込んだ予算を編成され、この収入不足は基金からの繰入金によって補てんされます。そこで、経営評価委員会の報告を踏まえると、基金の取り崩しについてはこれまで以上に慎重になければならない折、次年度予算の編成が基金の取り崩し収入を見込むに至った経緯をお聞かせください。

また、最終報告では当面の目標を平成24年度の収支均衡としていることから、平成23年度以降、各種振興策や経営改善策に努めるべきとされております。そこで、次年度の市営競馬開催に当たり、どのような取り組みを実施するつもりなのかお伺いするとともに、平成24年度の収支均衡に向けた決意をお聞かせください。

質問の第3は、農作物の鳥獣被害についてであります。

昨年、本市の市街地に相次いでクマが出没し重大な人身事故が4件も発生したことから、次年度予算ではクマを含む大型野生動物対策として、(仮称)金沢市クマ等野生動物調査研究グループを組織されるほか、新たに町会が設置するクマ対策用の電気さくへの補助金などが盛り込まれました。クマによる危害の可能性が市民のより身近なところに迫りつつある中での適切な対応であると評価できますが、クマと並んで深刻なのはイノシシやサルなどによる農作物被害であります。本市では、平成16年にイノシシによる農作物被害が初めて確認されて以降、21年度には被害額が1,000万円を超えるなど、年々被害が拡大しております。その対策として、イノシシ用の電気さくに対する助成はもちろんのこと、猟友会に対する支援などを行ってこられたことに加え、次年度からは新たにサル用の防護さくも支援対象にされました。そこでまず、今年度の中山間地域におけるイノシシ、サル、カモシカによる農産物被害の状況をお伺いいたします。また、有害鳥獣対策におい

ては、個々人が取り組むよりも、本市と地域が一体となって取り組むことが効率的であると考えますが、今後の取り組み方針とあわせ、見解をお伺いいたします。

ところで、最近のグルメブームの影響もあり、ジビエという言葉の知名度が上がってまいりました。ジビエとは、食材目的として捕獲された野生鳥獣のことで、具体的には鳥類ではマガモやキジ、獣類ではノウサギやシカなどがあり、もちろんイノシシも代表的なジビエの1つであります。県内でも、JA小松市がイノシシ肉と小松産トマトを使ったレトルトカレーを開発し、道の駅などで販売を開始したとの報道がございました。そこで、本市においても捕獲したイノシシなどを有効活用していくことを視野に入れ、必要な準備を進めていくことも肝要であると思いますが、所見をお伺いいたします。

質問の第4は、金沢まちなか学生交流街拠点整備事業についてであります。

この施策は、昨年4月1日施行の学生のまち推進条例の実践に向けて、学生がまちなかに集い学生活動を進めると同時に、市民や商店街との交流、連携によってまちなかをさらに活性化させるための拠点施設を整備するものであります。この拠点施設として、市指定保存建造物である佐野家住宅をまちなか学生の家として修復することに加え、旧料亭かわ新の大広間部材を用いた交流ホールを新設するとお聞きをしております。そこで、この施策を展開するに当たり、今当初予算に7,000万円を計上されており、その後の予定を含めると総額約5億円程度の予算が計上されることとなります。

ところで、この条例の基本理念では、学生の自主性を尊重しながら自主的な活動を促進させることや、相互の理解と連携を重視していくことが述べられております。また、そこでの本市の役割は、施策に学生ほか関係者の意見を十分反映させるよう努めるとともに、施策の実施に当たってはこれらのものの理解と協力を得るように努めると述べられております。つまり、そのねらいは、学生の積極的な参加のもと、その後押しを行政が行っていくことだと多くの方々には理解をされているのではないのでしょうか。よって、施設の規模や場所などは、本市の側から進めるものではなく、学生の側から要望されるものであり、ましてや5億円もの巨額な費用を投入しなければ学生が集わないのであれば、問題は別にあるはずで、そう考えると、今回の施設整備は歴史的建造物を新

たに保有するといった全く別の事業を、学生のまち推進条例の実践という名をかりて進めているとも受け取れます。そこで、拠点施設の整備に当たり、施設の規模や場所などの意見集約やアンケート調査などを行ったのか、また、学生の側からどのような申し入れがあったのか、あわせて、その後の学生との意見交換ではどのような展開になっているのかをお伺いいたします。

ところで、さきの12月議会でもこの施策についての質問がありましたが、学生の家の利用頻度、人数などの想定が我々議員はもとより、市民にも見えておりません。12月議会の答弁では、利用計画を策定中で数的な目標設定は今のところなかなか難しいと答えられていることから、予算提出者の市長でさえ利用の頻度や人数の想定をつかめておりません。しかも、提案理由説明の中で、ルイス・ガースナー著書の「巨象も踊る」の中から、「すぐれた戦略は大量の数量分析から始まる」という名言を引用されておりましたが、数量分析である利用頻度、人数などの予測がされていない現時点で、学生側から提案があったわけでもない、このまちなか学生の家や交流ホールの整備を総額約5億円をかけて進めていくことに対し疑問を抱くとともに、いささか拙速であると感じざるを得ません。今、行政のすべき事柄は学生の意見を最大限尊重することに加え、今後の事業計画と正確な利用予測をまとめることであります。この過程を踏んだ後、学生から求められた施設整備の予算案について、議会が必要性や費用対効果などを検証、慎重審議するというのが本来の順序であると考えますが、見解をお伺いします。

質問の第5は、本市の芸術・文化施設についてであります。

本市の芸術・文化施設は、昭和37年の金沢市観光会館開設以来増加の一途をたどり、今週の鈴木大拙館を含めると23施設を運営しながら維持管理をしていくこととなります。一方で、21世紀美術館以外の施設を見ると、平成14年の「利家とまつ」の放映をピークに利用者が一時落ち込み、その後若干持ち直しの兆しはあるものの、総入館者数の推移に目立った変化はございません。ところで、これらの施設は平成20年度に指定管理料として総額約18億円かかっている一方、施設の使用料を含めた歳入は約5億3,000万円であり、差し引き約12億7,000万円の管理運営費が本市財源から持ち出されており、施設の修繕費や減価償却を含めるとこの額以上の維持経費が

必要になってまいります。そこで、現在本市で管理運営されている芸術・文化施設のあり方や伸び悩み入場者の推移とこの維持管理費についてどのような所見をお持ちなのか、まずお伺いいたします。

さて、平成20年度の芸術・文化施設の維持管理費が一般会計に占める割合を他の中核市と比較してみると、中核市平均が約0.5%であるのに対し本市は約1.3%であります。また、平成10年に発行された金沢都市計画マスタープランに記載されている8種類の公共施設に対するアンケート結果では、市民から求められている公共施設として高齢者福祉住宅施設や体育館などのスポーツ施設が上位を占める一方、博物館、美術館は最下位でありました。これらの事実を踏まえると、本市としてそれぞれの施設のあり方や必要性について検討することが今後求められてくるのではないのでしょうか。

ところで、国の行政刷新会議では、事業仕分けという名のもと、事業ごとに税金がどう使われ、その効果がどの程度あるのかを検討し事業の必要性などを判定しておりました。そこで、本市の芸術・文化施設につきましても、文化施設は費用対効果や経済効果が判定しにくいということで終わらせず、これらの効果を調査し、施設のあり方や必要性を検証すべきであると考えますが、いかがでしょうか。また、施設が各地に分散されていて、利用者からすると利便性がよくないといったことも利用拡大につながらない要因であるとも言えますが、入館者が少ない施設や分散されている施設について、統廃合を視野に入れ検討される考えがないのかお伺いするとともに、将来の芸術・文化施設の整備方針をどのように考えておられるのかお伺いし、質問を終わります。

(拍手)

○福田太郎副議長 山野市長。

[山野之義市長登壇]

○山野之義市長 12番栗森議員にお答えさせていただきます。

公衆無線LANにつきまして何点かお尋ねがありました。ターゲットのことについてお尋ねがありました。公衆無線LANの整備に当たりましては、当然外国人を含めます観光客であったりだとかビジネスマン、国際会議の参加者などをターゲットに必要な情報を手軽に取得し、リアルタイムで発信できる環境を整えることで本市への誘客促進につなげてまいりたいというふうに思っております。また、公共施設やまちなかの商店街など一定のエリアで利用で

きるようにすることで、結果的に市民や学生さんにも利便性が高まり、まちなかの発信力にも向上することから、にぎわいや新たなビジネスチャンスが生まれてくるということを期待しております。市といたしましては、宿泊施設や店舗等への整備に当たりましては、必要な機能などを諸条件を取りまとめた上で民間事業者による整備を促したいと考えております。加えて、利用者の利便性や公平性にも配慮しつつ、市の観光施設やコンベンション施設等については、だれでも気軽に公平に利用できる無線LANスポットをスピード感を持って先行導入をしていきたいというふうに考えております。

また、セキュリティーにつきましては、民間事業者が整備をします公衆無線LANのセキュリティー対策につきまして、原則としてそのサービスの中になされるべきであると考えております。一方、公共施設などに市が整備するものについては、通信の暗号化であったりとか、ユーザー認証のセキュリティーを確保することが必要だというふうに考えております。いずれにしても、公衆無線LANの推進委員会の中で望ましいセキュリティー対策についても議論がなされることを期待したいというふうに思っております。

また、御指摘のとおりアプリケーションソフトの開発というものがその命運を握るというふうに思っております。まさに、そこそ民間の創意工夫が求められるところでありまして、明年度は広くクリエイターや学生などから金沢の魅力発信に資する新たなソフトウェア開発のアイデアを募集をしていきたいというふうに思っておりますし、優秀な提案に対しては萌芽的な開発への支援を行い、アプリケーションの実用化につなげていきたいというふうに思っております。

また、無線LANの金沢方式を確立して普及していくことが必要ではないかということでしたけれども、御提案の行政主導によります金沢独自の方式を構築するためには、運営主体を初めとして体制整備など課題も多いことから、中・長期的には僕は必要だと思っておりますけれども、まずはスピード感を持って民間事業者の既存サービスを活用していきながら、明年度秋の整備を目指していきたいというふうに思っております。

まず、金沢競馬につきまして、存廃について本市の基本的な考え方についてお尋ねがございました。これは御指摘のとおり金沢競馬には多数の方がかか

わっております、雇用の問題であったりとか、地域経済への影響などを考えると、可能な限り事業は維持していきたいという思いがあるのは事実であります。しかしながら、一方では金沢競馬経営評価委員会の最終報告において、競馬事業に税金を投入しないということが存廃の判断基準とされたことを厳粛に受けとめております。本市としては、この報告を踏まえ、毎年次年度に税金投入の事態に陥らないことを確認をしているところではあります。まずは平成24年度の収支均衡を目指し経営の健全化に努めていきたいと思っております。

基金の取り崩し収入を見込むに至った経緯ということですが、金沢競馬の収支につきましては、経営評価委員会の最終報告に基づき、関係者との協議を進め、平成23、24年度の2カ年で段階的に開催経費を削減することとしておりますが、平成23年度においては収支を均衡させるまでの経費節減は難しいと考えております。加えて、これまで控えてきました施設の修繕を必要最小限の範囲で実施する必要もあり、やむを得ず収支不足分を基金から繰り入れるものであります。

また、次年度の取り組み、そして24年度の収支均衡に向けた決意ということですがけれども、次年度は売り上げの拡大を図るために、名古屋や笠松競馬と開催日が重ならないように日程の調整を行ったほか、他場のナイター発売の日数を増加し、仕事帰りのサラリーマンなど新規のファン獲得を目指すこととしております。一方、経費節減につきましては、収支に見合った経費に転換すべく、聖域を設けることなく、あらゆる経費の見直しに取り組んでいくこととしております。ともあれ、金沢競馬を取り巻く環境は大変厳しい状況にありますが、関係者の協力を得ながら、平成24年度の収支均衡を目指し、県とともに協力をしていきたいというふうに思っております。

次、農産物の鳥獣被害につきまして、被害状況につきましては農林部長のほうからお答えをさせていただきます。

私のほうからは、個々人が取り組むよりも本市と地域が一体となることが必要ではないかという御提案がございました。御指摘のとおり、地域単位での自主的な取り組みが最も重要と考えておりまして、昨年3月、イノシシ対策マニュアルを策定し、地域住民を対象とした講習会を開催するなど集落ぐるみによる取り組みを推進しているところであります。このため、集落が実施します電気さくを設置に対す

る助成に加え、平成22年度からは新たに捕獲おりの購入やわな猟免許の取得に対する支援を行っており、今後とも集落ぐるみでの自主防衛対策の確立に向けてできる限りの支援を行っていきたくと考えています。

捕獲したイノシシの有効活用という点で御指摘をいただきました。市内でのイノシシの捕獲頭数は、平成21年度では170頭、平成22年度では250頭を超える見込みであり、捕獲後の処理は捕獲者の個々に行っており、現時点では民間ベースでの有効活用が適切であるというふうに考えております。

まちなか学生の家についてございました。意見集約やアンケート、そして意見交換のことについてお尋ねになられました。これは学生のまち推進検討懇話会において、学生を含む委員からまちなかにおいてさまざまな活動の拠点を設置すべきとの御提言をいただき、また、条例骨子案にかかわるパブリックコメントには28件、学生を対象としたアンケート調査においては402件の御意見もいただきまして、学生をまちなかに送り込む手だてや繁華街へ行きやすい環境をつくってほしいという旨の声が多かったところから、こういう御提案をさせていただきました。現在まで、金沢まちづくり学生会議を含むまちなか学生交流街拠点整備検討チームにおきまして、実際に利用する主体の学生自身から、イベントの開催や打ち合わせ、金沢町屋であることを生かした活用の具体案などを積極的かつ建設的な意見もいただきまして、学生及び高等教育機関や学生とまたかわる市民団体、多くのNPOの方たちや地域住民など、十分な活用も期待できるというふうに考えております。

また、現時点での行政のなすべき事柄について具体的なお話をいただきました。まずは、先般9月、議会の承認をいただき当該拠点施設の整備に着手したところであり、施設利用のあり方、具体的活用方法については、学生のまち推進にみずから取り組んできた学生たちの意見を生かしながら設計に反映をしたものであります。学生交流街の拠点整備は本市のまちづくりにとって不可欠のものであり、整備を進めていく中で、引き続き学生さん、そして市民団体等NPOの方たち、関係機関、事業者等で構成する学生のまち推進会議を中心に議論を重ねていくこととしておりまして、各位の御理解をいただきたいというふうに思っております。

なお、粟森議員御指摘ありましたように、的確な計画や利用予測、そして学生の意見を最大限尊重す

るというのは私もそのとおりだというふうに思っております。そのことにつきましては今後またこの学生さんと話も進めていながら、庁内でも議論を進めていながら、また、議員各位とも御相談を進めていながら、この計画の着手に取り組んでいきたいというふうに思っております。

次に、芸術・文化施設について何点かお尋ねがございました。その入場者の推移、維持管理にかかる費用についての認識をお尋ねがございました。粟森議員の御指摘の中にありました芸術・文化というものは、なかなか数値だけでは把握できない、未来への投資という側面もあります。ただ、そうはいいながらも常に効率的な維持管理を心がけていくということは大変大切なことでありますし、魅力ある展示に努めて市内外から多くの方が来ていただいて入場者数の増加を図っていくことも大切だというふうに思っております。改めて、御指摘もいただきましたので、費用対効果や経済調査はどのような形で行っていくことができるのかも含めて、関係各位とも相談をしながら進めていきたいというふうに思っております。

また、統合や廃止の件について御意見もいただきましたけれども、それぞれ現在のところ芸術・文化施設が担っている役割がそれぞれにございまして、現時点においてはこれらの施設についての統合や廃止についての議論は今のところ検討は考えてはおりません。また、将来の施設整備については、さきに述べましたその本質的な役割を踏まえると同時に、さまざまな社会状況を勘案し適切に対応していきたいというふうに考えてもおりますし、再三申し上げましたように御指摘もいただきましたので、その御指摘の点も留意をしながら、今後は検討を重ねていきたいというふうに思っております。

私のほうからは以上です。

○福田太郎副議長 米林農林部長。

[米林憲英産業局農林部長登壇]

○米林憲英産業局農林部長 今年度の中山間地域におけるイノシシ、サル、カモシカによる農作物被害の状況についてお答えいたします。

平成22年度のイノシシによる被害は、タケノコ、水稻などで面積が383アール、被害額は810万円であり、昨年度に比べ面積で約3分の2、金額で約4分の3に減少し、電気さくや緩衝帯の設置など、これまでの対策の効果があらわれたものと考えております。一方、サルによる被害は35アール、約100万円

で、昨年度に比べ面積で約2倍、被害額で約5倍にも増加し、カモシカによる被害は32アール、約100万円で、昨年度に比べ面積は微増であります。被害額は約1.5倍に増加しております。今後、さらなる被害の拡大も懸念されることから、引き続き対策の強化を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長、12番」と呼ぶ者あり〕

○福田太郎副議長 12番栗森慨議員。

○栗森 慨議員 3点お伺いいたします。

まず、公衆無線LANについてなんですけれども、今現時点では公共施設に関してはすべてのメーカーが利用できるように整備されていくというふうな答弁だったと思いますけれども、このまちなかにおいても金沢市の例えば観光地だとか、飲食店街だとか、まちの魅力を発信する施設については、私は、1つのメーカーだけが利用できるのではなくて、すべてのメーカーが利用できるように行政が進めていくことが大事だと思うのです。といいますのも、このメーカーじゃないとできないとすれば、金沢に来て、スマートフォンですべてが網羅できるというような話で来てみたら、実際はできなかったというまた不信を招いて帰っていただくことにもなり得ませんので、やはりそのあたりは行政指導で進める部分についてはぜひそうなるようお願いしたいと思っております。

次に、まちなか学生の家についてでありますけれども、現時点でも数的な目標は明示されていないかなと私も思っております。会議の中でそれなりに議論が進んでいるということは今私は、初めて知ったんですが、やはりその議論の内容も含めて、やはりこれだけ大きなお金をかけて整備する施設ですから、明確にしていくことが市民に対する説明責任でもあると思いますし、我々議員に対しての説明責任でもあると思います。我々議会といたしましても、賛成するとなれば、5億円を投じて整備された施設が有効利用されなかったら市民に対して申しわけない、そんな思いでございますので、そのあたりの説明はぜひもっと広くしていただきたい、そのように思います。

3件目、現術・文化施設なんです。今ほど費用対効果が計算しにくいというお話がございました。確かにそれも一理ございますけれども、例えば金沢市の芸術・文化施設で1日に利用者が10人も来ないようなところがあるわけです。そこに施設長と事務

員の人ですか、2人体制で維持管理費が常に発生するというようなことは私は避けるべきだと思います。といいますのも、金沢市民でさえそんな施設があったのという意見もございまして、そんな施設必要ないんじゃないのという意見も私はよく耳にします。逆にこの施設は絶対必要だから残してくれという意見のほうが私は少ないんじゃないかなと思うので、金沢の魅力を発信していくとすれば、まず金沢市民でさえこの施設は必要だと思えるような施設の運営をしていかなければ、新幹線が開通して、金沢にこんな施設があるよと売り出しても、観光客が来て、何だ、この施設というふうなことになって帰っていただければ、魅力発信どころから魅力の低下につながるのではないかと私は思うので、そのあたりをしっかりと整理していただきたいと思っております。

以上です。

○福田太郎副議長 山野市長。

〔山野之義市長登壇〕

○山野之義市長 再質問、3点お答えさせていただきます。

公衆無線LANのことにつきましては、基本的には検討委員会、もうレベルが既に極めて高度で専門的な議論になっておりますので、検討委員会のほうで具体的な形で議論をしていただきたいというふうに思っておりますし、栗森議員のその意向もきちんと責任を持ってお伝えさせていただきたいというふうに思っております。

学生のまちのことにつきましては、栗森議員御指摘のように、事業計画、そして利用予測、そして学生の意見を最大限尊重する、それで議論をしているということも、そして、その結果もきちんと広く多くの市民の方にお伝えできるような手だては考えていきたいというふうに思っております。議会や委員会でも定期的に報告するということはもちろんのこと、ホームページであったりだとか、また、関係者にもきちんと伝わるような形でしていきたいというふうに思っております。

文化施設についても御提案がございました。御指摘のとおりであります。今改めて、そういう御提案もいただきましたので、お一人でも多くの方がその施設に訪れていただけるような告知も必要だと思いますし、その内容であったりだとかも精査をしていながら、魅力の発信につながるよう努力をしていくことをここでお約束させていただきたいというふうに思います。

以上です。

〔「議長、12番」と呼ぶ者あり〕

○福田太郎副議長 12番栗森愷議員。

○栗森 愷議員 文化施設のことに関して、最後にもう一度お伺いします。

これから文化施設の魅力を高めて、金沢市民はもとより、観光客の方にも価値がある金沢の財産を見てもらう、そんな決意だったと思います。しかしながら、観光施設の維持管理による財政支出というものは、やはり他の都市よりも大きいわけです。金沢が文化・芸術を大事にするといっても、そこは大きいところがございますので、実際やはり検討していただいて、人が来やすい環境をつくるだとか、魅力が発信できないということがあるんだとすれば、私は当然統廃合というものも視野に考えていかなければならないと思うのです。それが、私は、市民の求めていることではないかと思えます。といいますのも、そこで浮いたお金を市長がおっしゃっている市政刷新のための予算につぎ込むというのが、これが私は市政刷新だと思うのです。踏襲とばかり言っても、新しいことを始めれば必ずどこかで予算をつくらなければならないわけです。その財源捻出の方法として、私は1つ提案をさせていただいてるわけがございますから、そのことも理解した上で、統廃合をすぐにしろというわけではございませんけれども、そのことも多少視野に入れながら検討していただきたいと思えますけれども、御答弁をよろしくお願ひします。

○福田太郎副議長 山野市長。

〔山野之義市長登壇〕

○山野之義市長 今の私の立場といたしましては、それぞれの役割を持っている施設でありますので、何とにしてもその施設の魅力を高めることによってまちの魅力を高めていく、そのことに全力を尽くしてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長、25番、関連」と呼ぶ者あり〕

○福田太郎副議長 25番苗代明彦議員。

○苗代明彦議員 今、芸術・文化施設について、統廃合ということについて再々質問に答えていただきました。私も、この辺では少し疑問に感じているところがありまして、その辺個々に微細に申し上げるわけにはいきませんが、少し大ざっぱな御提案をさせていただきたい、このように思っています。

今現在、この文化施設等々には経済効果はなじま

ないという言葉は昔からありまして、このお向かいにある21世紀美術館も、最初の私の質問に前の山出市長は、最初の答弁はそのような答弁でした。ところが、ひそかにやったらいい結果が出たんでしょう、1回置いて、次にもう一回やってくれて、やりましたら、当初は100数十億、ランニングでたしか70億の経済効果があるということが報告されました。今では、この21世紀美術館、世界にも誇るべきものでありますし、市民にもまた胸を張って経済効果もありますし、言える施設だと私は思うんです。

それと、もう1つは、この金沢は芸術・文化というところにしっかりと保全をしてきて、そして今の金沢が形成されていると、非常に全国他都市から見るとうらやましい一面を持ったまちになっていると私はそのようにも思っていますし、今後もそうしていただきたい、そのように思います。ただ、長くなるといけませんので端的に言いますと、例えば文学に興味のある人が、金沢の3文豪というものに興味を持って訪れた場合、湯涌へ飛んで、千日町へ行って、あともう1つどこだったかよくわかりませんが、犀星、鏡花、秋聲といったような、そしてそういうような見学のさせ方、これはいかがなものかなというようなことを素朴に感じるのです。一気にどこにあってくれば、確かにこれまでの立地条件の理由はそれぞれありました、その人の縁、ゆかりのあるところというような、強いて言うたら、ぼってつけたようなところもありますけれども、そういうことでその場に位置をしてきたと。

これを今解消するのに、市長、すこしいい条件が出てきたんです。過去の平成の大合併で後に大変な問題として出たのは、補助を受けて建てた建物を、目的外に使おうとすると大きな障害がありました。ところが、ここに来て、それらがやや緩和の方向に大きく向かっています。微に入り細に入り、その関係省庁やそれらによってその範囲は若干変わっているものと私は理解をしますけれども、そうすると、3つあるものを1つにしても、他の2つの利用は非常にしやすくなったという、実はそういう側面があるだろうと私はこのように思うのです。ですから、今のうちに統廃合しろではなくて、せめてそのくらい頭に入れて議論してもらわないと、それはやらない、まず今あるものをどうやって人が入ってもらって、入りませんよ、そんな、簡単に。それやったら、もうそれできちんと今統計とりますから。それは、ほんな入らない。だって、それはつごう悪

いんだから。だから、今一例を挙げましたが、そういったものを細かく言うとまだあります。ですから、それを何とかまとめてやるとか、いろいろやるということも利便性を増すということにもなるわけです。そのことを踏まえて、ぜひもう一度再度答弁をいただきたい、このように思います。

○福田太郎副議長 山野市長。

〔山野之義市長登壇〕

○山野之義市長 今ほど、苗代議員からも御提案もいただきました。その御提案も御提案どおり頭に置きながらも、そうはいいいながら、今の私としましてはまず本質的な役割を担っている館の活性化に向けて努力をしていきたい、頭に置きながらも、きちんと認識しながらも活性化について全庁的に議論をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長、36番、関連」と呼ぶ者あり〕

○福田太郎副議長 36番澤飯英樹議員。

○澤飯英樹議員 私も総務の委員会で公衆無線LANについてはいろいろとイメージがつかめなかったもので、よくお聞きをしておったんですが、今議会の委員会で多分大分出てくるのかなと思っておたら、栗森議員の答弁に対して結構突っ込んだ御答弁がありました。セキュリティーに関しては暗号化をするというようなこと、再質問のときに検討委員会にまた言うよというようなことで、検討委員会が先にそういうのをいろいろとやっているんでしょうけれども、今いわれたようなことは市長が先に言うとか検討委員会の議論がまとまってしまうのかなというふうに気がいたします。

聞きたいには、早口だったのでちょっとわからなかったんですが、セキュリティーを守るために暗号化するということになればパスワードか何かをするということでしょう。そうすると、国際会議だとか専門家がする場合はパソコンですよね。先ほど対象は観光客やら学会やらいろいろなことのすべて言っちゃったので、そういうもう少し分けないと、観光客が相手なら観光地ならだれもパソコンを持って歩かないわけなんで、先ほど言ったスマートフォンのタブレットなり携帯型なりを持って歩く、そのときに果たしてパスワードの要るような1回1回登録するんでしょうか、個人情報を一遍一遍入れて会員登録、いわゆるネットの会員登録みたいなことをせぬとパスワードが入らないんですよね。そういうことをすると、みんな面倒くさいやということにならな

いのかなということ危惧しておるんです。だから、もっと議論を待っていたいなと思ったんですが、市長はこうやってしまったので、そういう方向に行くのかなというふうなことを思ったのですが、それでよろしいですか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○福田太郎副議長 山野市長。

〔山野之義市長登壇〕

○山野之義市長 早口なのでちょっとわからなかったというふうにおっしゃっていただきましたけれども、済みません、あくまでも今のは公共施設です。公共施設の中においては、それは行政が責任を持って担っていかなくちゃいけない部分ですから、この部分においてはセキュリティーについてはユーザー認証等は行政の責任としてやっていかなければならないというふうに思っています。ただ、それ以外の場所につきましては、これも今ほど申し上げましたようにまちなかの公衆無線LANのセキュリティー対策につきましては、原則としてそのサービスの中でなされるべきものであるというふうに考えておまして、その進め方は検討委員会の中で議論されていくべきものだというふうに認識をしております。

以上です。